

(別添資料1)

事業所名

さくらんぼ

支援プログラム（参考様式）

作成日

R7 年

4月

1 日

法人（事業所）理念		「いつでも どこでも 誰とでも 生活できるたくましい子どもたち」を目指します。					
支援方針		日常生活上での必要な介助、および機能訓練を行い、お子さんが自分でできる事を増やしていけるよう支援していきます。また、お子さん自身が誰の介助でも快く受け入れられることを目指しています。					
営業時間		10 時	00 分から	16 時	00 分まで	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	全身状態の観察、健康管理を行い、体調に変化が見られる際は、早急に対処を行います。 吸引、痙攣発作の観察、酸素管理など必要な対応を行います。 姿勢を工夫し排痰・排尿を促します。					
	運動・感覚	活動を通して身体機能の維持・向上を図ります。また、姿勢のバリエーションや運動を促します。 機能訓練担当職員の介入により筋力維持、ストレッチ、マッサージ、側弯予防などを図ります。					
	認知・行動	様々な活動に参加したり関わりを受けたりしながら、色々な感覚刺激を行います。 刺激に対する反応を確認しながら、興味関心を確認していきます。 心理士の介入により感覚統合を図ります。					
	言語 コミュニケーション	利用者に合ったコミュニケーションツールを用いて相互理解を図ります。 喜怒哀楽などの意志表示をより明確にできるよう関わって行きます。また、表情や反応を観察し、本人が表出する要求方法が強化できるように努めます。					
	人間関係 社会性	集団活動の中でお友達と関わる時間を増やしていきます。 個別では心理士を中心にいろいろな経験を積み重ねていきます。（要求等を引き出していきます）					
家族支援		保護者の就労やレスパイトなど心身の状態に応じた関わりなど、必要に応じて相談を受け助言を行います。				移行支援	特に学部が変わる時期にスムーズに移行できるように必要な情報を提供し進路などを確認します。
地域支援・地域連携		利用者の関わりのある機関と連絡を相互に行い、どんな場所でも安定した状態で過ごせるようにします。				職員の質の向上	月2回の職員研修や外部研修へ参加し職員の質を向上させ、利用者へ還元します。
主な行事等		1月：初詣・書初め 2月：節分 3月：ひなまつり・花見 4月：進級式 5月：鯉のぼり 6月：紫陽花 7月：夏祭り 8月：夏祭り 9月：遠足 10月：ハロウィン 11月：遠足 12月：クリスマス会					

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	桜が丘クリニック 児童発達支援 さくらんぼ		
○保護者評価実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	クリニック併設	クリニックと連携し、体調不良時や予防接種等対応している。	特に無し
2	個々の状態に合わせた対応を行っている	身体状況や各々の特性の把握に努めそれに応じた支援を検討し、個別支援に取り組んでいる。	事業所だけでなく、家庭や学校とも連携強化に努め継続して支援の充実を図っていきたい。
3	異年齢の交流	同じ敷地で生活介護まで行っているため、異年齢と交流を図っている。	特に無し

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族交流の不足	家族とのコミュニケーションは積極的に取っているが、コロナの流行後交流会を実施できていない。	交流会の実施を検討していく。
2	地域交流の不足	コロナ流行前は地域のイベントに参加できていない。	地域のイベントの参加を検討していくとともに積極的に地域の場での活動する機会を設けていく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 さくらんぼ

公表日 令和7年 4月 1日

利用児童数 令和7年 4月 1日 回収数 1

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	○					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	○					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	○					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	○					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	○					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	○					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	○					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	○					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	○					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	○					
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。				○		感染症の問題もあるため保護者の同意が得られれば取り組みたい。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	○					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	○					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	○					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	○					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	○					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	○					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。				○	入ったばかりのため	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	○					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	○					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	○					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	○					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	○					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	○					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	○					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	○					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	○					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	○					
	29	事業所の支援に満足していますか。	○					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
さくらんぼ		令和7年 4月 1日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後検討していきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		就業時間中に月2回研修する場を設けている。また、外部研修にも参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼にて徹底している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼で徹底している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。		○		たまに複数日分まとめて記録を取ることがあるため改善していきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		特に医療と学校と連携している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		主として重症心身障がい児を対象としているため完璧ではないが、本人の意思をこちらがなるべくくみ取れるようにしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	(28～30は、センターのみ回答)	○			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○			
	31	(31は、事業所のみ回答)		○		感染症の問題で心配される保護者がいらっしやるため交流は行っていない。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		特に送迎時に伝達している。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。		○		今後検討していきたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		場合によっては家庭訪問も行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者会を開いた。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		毎月写真を送ったり、インスタやHPの更新、定期的な通信の発行を行った。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○		次年度行う計画を立案中。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。				